

抗 UmuD 抗体, ウサギ抗血清

商品コード	61-011
容量	100 μΙ
保存	-20 °C 凍結融解を避ける
濃度	N/A
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム添加
純度	ウサギ抗血清
抗原	精製リコンビナント LacZ'-UmuD 融合タンパク質
アイソタイプ	ウサギ IgG
反応性	<i>E.coli</i> UmuD
アプリケーション	ウェスタンブロッティング(x 3,000 希釈、図 1)
背景 Data Link	umuD、umuC、recA 遺伝子などの SOS 遺伝子の産物は放射線や化学物質などによって誘発される突然変異に必要である。ふだんこれら SOS 遺伝子は抑制因子 LexA タンパク質によって発現が抑制されている(文献 2)。細胞が DNA 損傷物質に曝されると RecA タンパク質が活性化され、LexA タンパク質の切断が促進される。切断によって LexA タンパク質が不活化されると umuD、C、recA などの SOS 遺伝子が活性化される。UmuD タンパク質は、次に ATP 依存的に RecA タンパク質 ssDNA によって促進されながら自己切断される(文献 1)。プロセスされた UmuD タンパク質は突然変異活性化フォームとなり、UmuD-UmuC 複合体は error-prone translesion DNA polymerase として働く(文献 3)。 インタクトな UmuD の分子量は 17kD で、タンパク分解を受けた活性化フォームは 14kD の大きさである(文献 1 と図 1)。
	UniProtKB P0AG11
文献	この抗体は文献1で用いられた。 1. Shinagawa H <i>et al</i> (1988) "RecA protein-dependent cleavage of UmuD protein and SOS mutagenesis." <i>Proc Natl Acad Sci USA</i> 85 : 1806-1810 PMID: <u>3126496</u> 2. Friedberg EC <i>et al</i> DNA Repair and Mutagenesis 2nd., ASM Press
関連商品	01-001 大腸菌 RecA タンパク質 61-003 抗大腸菌 UmuD 抗体、ウサギ抗血清
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	



画像: 61-011 抗大腸菌 UmuD 抗体、ウサギ抗血清

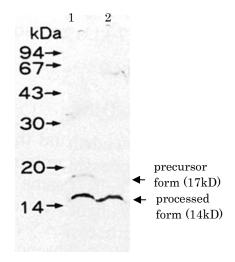


図1 大腸菌 DE274 (*lexA51, recA730*)の抽出液において、この抗体を用いたウエスタンブロッティングを行い UmuD タ ンパク質を検出した。

lane1: mitomycin C 非処理 lane2: mitomycin C 処理